

Weekly Market Report

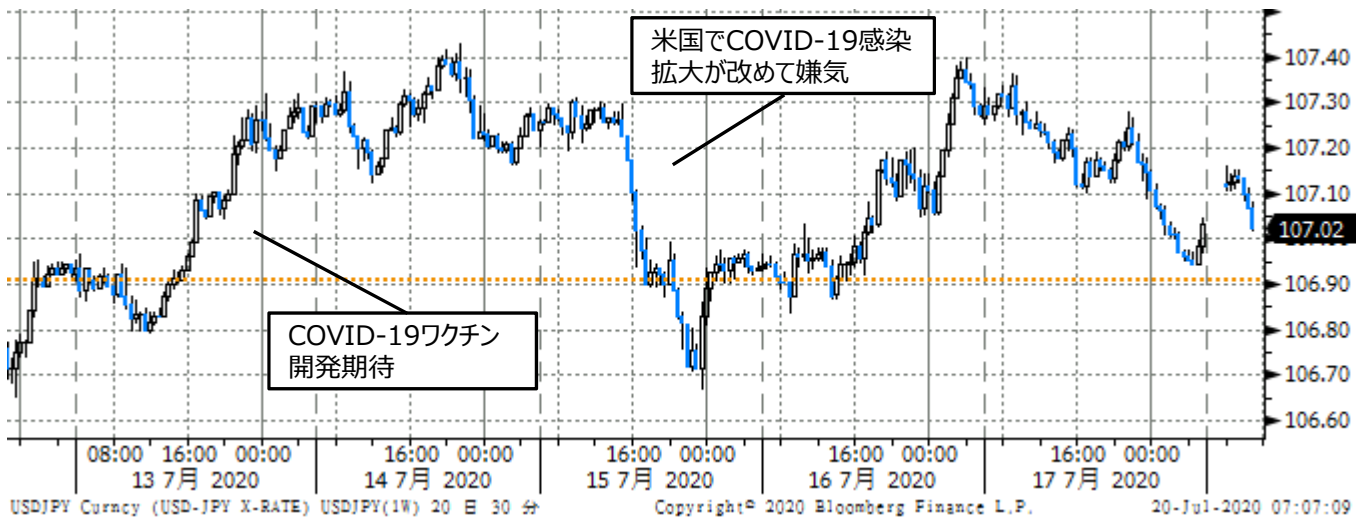
Jul 20, 2020

FX, JPY Interest Rate, Topics

1. 為替相場概況

COVID-19ワクチン開発状況と米国感染状況に振られる展開。今週は重要な米企業決算あり。

USD/JPY (1週間の値動き)



コメント

先週の米ドル円相場は106円台後半～107円台前半でのレンジで推移した。米国で新型コロナウイルス（COVID-19）のワクチン開発に対する期待感が高まり、米株高・米金利上昇に連れてドル買い・円売りが進む一方、米国内でCOVID-19感染拡大が止まらない点や米中対立激化懸念（トランプ米大統領による「香港自治法」への署名）もフォーカスされ、ドル売り・円買いが進行し、一進一退の展開となった。

今週は、米6月住宅関連や新規失業保険申請件数などの経済指標に加えて、足元の株式市場を引っ張る米ハイテク銘柄（マイクロソフト、テスラ）の決算発表が予定されている。特にマイクロソフトはコロナショック以降の株価上昇を支えてきた銘柄であり、市場の事前予想を下回る決算となった場合は失望売りが広がり、ドル売りに波及する可能性があり警戒が必要と考える。
(市場営業部/高橋)

今週の経済指標等 (予定)

日付	イベント	予想
7/22(水)	(米国) 中古住宅販売件数	4.70M
7/22(水)	(米国) マイクロソフト4-6月決算	36.4B (売上)
7/24(金)	(欧州) 製造業PMI	49.8
7/24(金)	(欧州) 非製造業PMI	51.0
7/24(金)	(米国) 新規住宅販売件数	700k

USD/JPY (5年間)



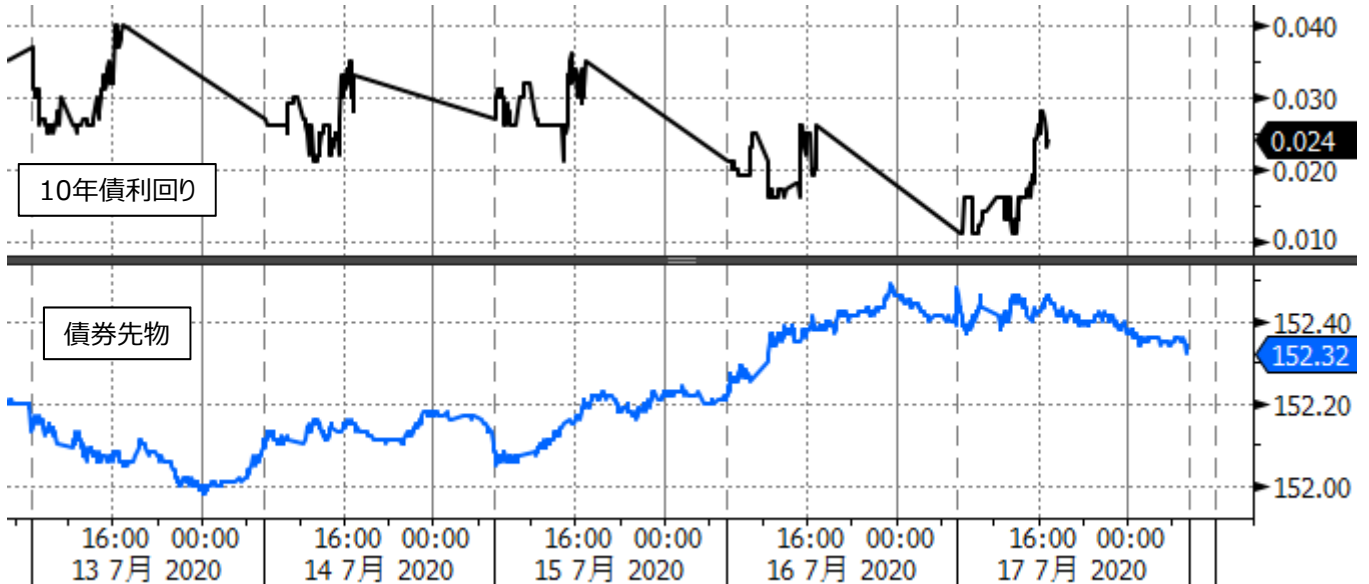
今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
治久丸智文	105.80 - 107.80	新型コロナウイルス関連のヘッドラインに対する警戒感から上値の重い展開を予想。米国追加財政政策情報にも注目。
福永純一	105.50 - 108.00	米ワクチン開発への期待感がある一方で、新型コロナ感染第二波や米中対立への懸念から引き続き揉み合う展開を予想。

2. 円金利相場概況

リスクオフモード継続か。引き続き、動きの出づらいつ展開を予想。

10年国債金利と債券先物 (1週間の値動き)



GJGB10 Index (日本国債10年) JGB.F 10 日 3 分 Copyright© 2020 Bloomberg Finance L.P. 20-Jul-2020 07:08:16

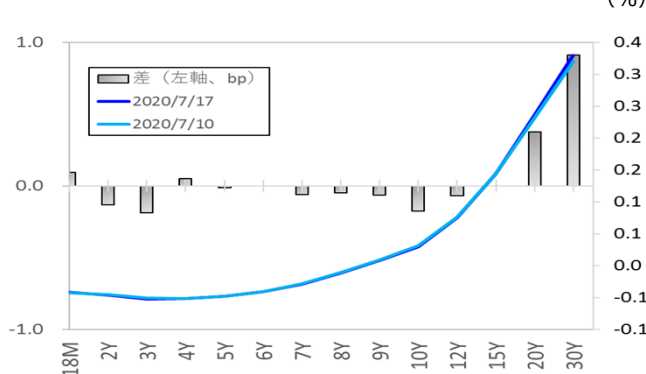
(出所) Bloomberg

コメント

先週の円金利相場 (10年債利回り) は、0.010%-0.040%のレンジで推移した。週初は市場の判断材料が乏しい中、新型コロナウイルス治療薬への期待感を背景に株高に引っ張られる形となり、円金利は上昇してスタート。その後、週央にかけては日銀の政策決定会合を控えていたことや、海外の新型コロナウイルス感染拡大第2波による先行きの不透明感から、円金利はほぼ横ばい。週末にかけては、国内感染者数が600人を超えるなど国内市場でのリスクオフモードが強まり、円金利は低下基調で推移した。

今週の円金利は狭いレンジで推移する展開を予想する。21日に、20年債入札が予定されており、今月の入札はいずれも順調に消化されていることから、こちらは無難な結果が見込まれている。国内は23、24日が祝日で休場となるほか、国内、海外ともに新型コロナウイルス感染拡大懸念が強まっており、今週も動きの出づらいつ一週間となるだろう。(市場営業部/辻本)

金利スワップ変化 (1週間)



5年円金利スワップ推移 (5年間)



今週のレンジ予想 (10年国債利回り)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
吉岡博紀	0.00% - 0.05%	国債増発による需給悪化懸念も概ね払拭され引き続き円金利の上昇圧力は限定的。明日の20年債入札には注目。
小野口裕美子	0.00% - 0.05%	コロナ関連の話題で相場が一喜一憂する状況は変わらず、祝日も控えてレンジでの動きとなりそう。

米株概況

コロナショック後の米株は一部の消費財銘柄とテクノロジーセクターが牽引し、底堅く推移。

米株はコロナショックを経て、足もと持ち直し

今年の米株マーケットの動向を振り返ってみると、S&P500は、2月に史上最高値を付けた後、新型コロナウイルスによる景気悪化を懸念し、大幅下落。米国内での日次新規感染者数が約1万人にまで拡大した3月23日にコロナショック後の安値をつけた。その間に、FRBは社債買入れ等を含めた金融緩和策を発表。米議会は大型の経済対策法案を成立させ、株価は徐々に持ち直していった。

その後は、ロックダウンを経て経済活動も再開し、株価は堅調な推移を見せている。ただし、米国では新型コロナウイルスの感染者が新たに1日当たり5万人超確認されるなど、この2週間で劇的な感染再拡大に見舞われている。こうした状況を受けて、カリフォルニアやフロリダなどの米大都市圏で外出規制が再強化され、経済再開に向けた動きが一部では再度停止しつつある。

一方で、ここも新型コロナウイルス感染症ワクチンをめぐり有望な初期データがいくつか示されつつあり、今後も本格的な経済再開に向けての動向が注視される。

牽引役は一部の消費財銘柄とテクノロジーセクター

S&P500は最高値をマークした2月20日から10%程度低い水準まで回復してきたが、セクター別には2極化が進んでいる。特にFANG銘柄などの一部大型銘柄への資金流入が際立っている。セクター別で見ると、2月20日からの推移で最もアウトパフォームしたのは一般消費財とテクノロジーセクターとなっている。ただし、一般消費財セクターについては、同セクターの40%超を占める（時価総額ベース）アマゾンが約40%の大幅上昇で牽引していることが主な要因となっている。同セクターにおいては、株価が上昇している企業数は約23%にとどまっており、セクター内における上昇・下落のバラつきは大きくなっている。また、原油価格の低迷もあってエネルギーセクターは最も回復が鈍く、足もとでも再び下落トレンドになりつつある。

アナリストは米企業の21年での業績回復を予想

足もとでは米企業の決算（4-6月期）発表シーズンを迎えており現状のコンセンサスを確認していく（図3）。今回の決算発表では市場コンセンサス通り4-6月期を底に業績持ち直しの見通しが確認できるかが焦点の一つとなっている。

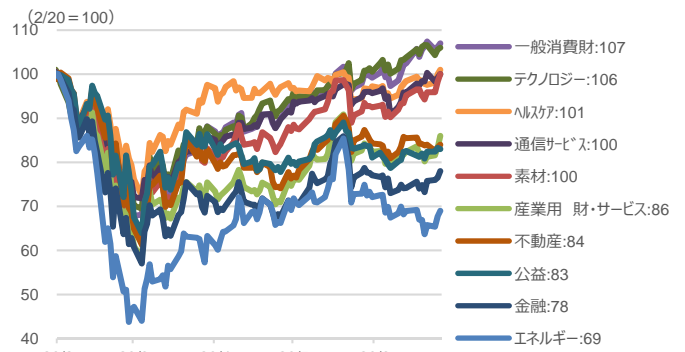
また、21年通期については、一転してプラス成長が見込まれておりS&P500全体のEPS水準としては19年並みまで回復することがコンセンサスとなっている。特にGAFA企業の進展もあって、セクターとしての注目が見受けられるテクノロジーセクターは、20年通期のEPSはマイナス11%と落ち込んだあと、21年通期ではプラス17%と大きく上昇する見込み。現状、コロナ環境下での経済活動には不透明な点も多いが、テクノロジーセクターにおいては、強力な成長期待がコンセンサスとなっており、これが足もとで株価がアウトパフォームしている要因の一つと考えられる。

【図1】米株（S&P500）と米・コロナ新規感染者数



出典：Bloomberg、米ジョンズ・ホプキンス大学システム科学工学センター（CSSE）

【図2】S&P500 セクター別推移



出典：Bloomberg

【図3】S&P500 業績予想

■EPS成長見通し	20年4-6月期 EPS (前年同期比)	20年通期 EPS (前期比)	21年通期 EPS (前期比)
エネルギー	▲48%	▲81%	-
素材	▲26%	▲26%	+39%
資本財	▲25%	▲31%	+20%
消費財	+5%	▲9%	+13%
ヘルスケア	+4%	▲10%	+14%
通信サービス	▲17%	▲11%	+5%
公益	▲1%	▲1%	+6%
金融	▲34%	▲29%	+27%
テクノロジー	▲4%	▲11%	+17%
合計	▲20%	▲12%	+22%

(7/19時点)

出典：Bloomberg

ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会